

止マラル者
止マラル区域へ出入シ
ル者
メタル者
放場ヲ離レタル者
ハ整列ヲ欠キタル者
証左トナル書類等ヲ違失
ル者

至外ヲ徘徊シタル者
キタル者
與ノ諸品ヲ貸借シタル者
ナシタル者
期ヲ忘リ二十分ヲ過キタ
(以下次号)

警察署へ送セラレタリ
付テハ晝一ノ取締ヲ要ス
條部長心得ニ照準シ諸事
相違候事
出セメ別紙心得ニ照準
得

該警察使ノ協示ヲ受街
署一ノ執行ヲ要ス○第
則ニ抵觸セシモノハ懇々
目毎ニ着手ノ模様ヲ詳細
凡シ街路ニ突出セシ商品
警察署ニ於テ人力車置
ズ○第四條 下水外へ建
釣看板等即時取除キ難キ
除カシムヘシ○第五條
出願セシムヘシ但シ不
ハ二週間以内ニ取除カシ
上突出スル標燈(従前認
時取除キ難キ事情アル分
ヘシ○第七條 第四條第
警察署へ宛テ請書ヲ差
分方ハ都テ一應取除シ再
警察署へ告發スヘシ○第
モ直ニ取拂ハシムルヲ得
出ツヘシ

死 六十一人
亡 三万千百
死 七十三人
亡 七十三人
内務省衛生局

千原秀三郎
千原秀三郎
千原秀三郎

六位 興倉 守人
五位 中井 私

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全
叙正六位
叙從六位
海老原 清 吉田 省三 大野 省內 伊藤彌二郎
叙正八位 小尾 輔明 東郷 實政

時事新報

驛遞電信事務

目下驛遞局ニ於テハ全國郵便法ノ改良ト共ニ大ニ郵便稅
増加ノ企アリト聞キ我輩ハ直ニ意見ヲ吐露シテ郵便法ノ
改良ハ目下必須ノ事項ニシテ一日モ急速ナラシメテ欲ス
ト雖モ郵便稅ノ増加ニ至リテハ啻ニ一國ノ文明ヲ妨害ス
ルノ非擧タルノミナラズ收入金額ノ多寡即チ驛遞事務ノ
金錢上ノ損益ヨリ論ズルモ郵便稅ノ廉ナルハ爲メニ郵便
物ノ員數ヲ増加シ支出收入ヲ差引シテ其高價ナル時ヨリ
モ廉價ノ時ノ方却テ多額ノ益金アルコト既ニ先例ニ於テ明
白ナリ今我國ノ郵便稅ハ他ノ文明諸國ニ比シテ甚ク高價
ナリ最モ甚キハ一冊ノ書籍ヲ東京ヨリ横濱ノ友人ニ届
ケントスルニ日本驛遞局ノ手ノミナテ直接ニ之ヲ横濱
ニ送ルニハ四錢ノ郵便稅ナレハ先ヅ之ヲ米國紐育在留友
人ノ許ニ郵送シ(此郵便稅ハ一錢ナリ)同人ヨリ更ニ横濱
ノ友人ニ宛テ、郵送シ來ルハ往返ノ郵便稅ヲ合計シテ
前記直接郵送稅ノ半額即チ金二錢ナリ是等ハ實ニ日本郵
便法中ノ一奇觀ナルベシ故ニ現今ノ郵便稅ヲ増加セザル
ノミナラズ更ニ之ヲ低減シテ文明國相當ノ廉稅ニ改正シ
孟子ノ所謂幽谷ヲ出デ、喬木ニ遷ルベシ喬木ヲ下リテ幽
谷ニ入ルベカラズトノコト反復論辨シタリシガ爾來滿天
下ノ論者モ亦我輩ト意見ヲ同クシテ万口一音郵便稅增加ノ
非ヲ鳴ラシテ其減稅ヲ希望セザルモノナシ即チ我全國人
民ノ輿論ナリ輿論九率ニ鶴鳴シ其聲果シテ天上雲外ノ驕
席ニマデ達シ得タルヤ否ヲ知ラズト雖モ蓋シテ天上目カフ
聰耳ノ在ルアレハ必ズヤ衰トシテ聞カズト爲スガ如キコ
ト得ザルベシ

我輩ハ今郵便法改良ノ議アルニ際シ更ニ又政府ノ注意ヲ
喚起シテ大ニ驛遞全局ノ事務ヲ改良擴張シ其面目ヲ一新
セシムコト希望スルナリ蓋シ今ノ郵便法ヲ改良擴張シテ都
邑村落ノ別ナク眞成一價郵便稅ニ改メ、配達ノ度數ヲ
増加シ又之ヲ迅速ナラシメ、郵便局ヲ増設シ、或ハ新ニ小
荷物郵送法ヲ創メ、生命保險養老金給與ノ仕組ヲ設ル等
以上皆甚ク善シ然レハ我輩ハ此等ノ改良擴張ノ外更ニ大
ニ驛遞事務ヲ擴張シ當時工部省ニ屬スル電信局ノ事務ヲ
取テ一併驛遞局ニ合併シ實際ニ日本ノ通信事務省ヲラシ
メシムコトヲ欲スルナリ抑モ電信ノ性質タルハ畢竟スルニ形

ナ異ニシタル書信ノ然ルニ書信ヲ傳送スルハ驛遞局之
ナリ電信ヲ傳送スルハ電信局之ナリ何ア斯ノ如ク煩
勞ナルヤ或ハ又一箇ノ場合ヲ想像シ書信ノ遞送ハ政府ノ
獨業ト爲シ電信ノ遞送ハ各私立會社ノ私業ニ屬シタル國
柄ニ於テハ書信電信ノ事務ヲ一監督ノ下ニ總轄セザルハ
明白ナル理由アリト雖モ目下我國ノ如ク書信ヲ遞送スル
驛遞事務モ電信ヲ遞送スル電信事務モ共ニ政府ノ獨業ト
ルノ際ニ當リ一ハ之ヲ驛遞局ニ屬シ一ハ之ヲ電信局ニ屬
シ兩者各別ニ分立獨行シテ相關セザルガ如キハ損有テ益
ナキ不便至極ノ仕組ナリト云フ可シ元來何等ノ理由ヨリ
シテ電信遞送ノ事務ヲ工部省ニ屬シ別ニ電信局ナルモノ
ヲ設ケシヤト尋ルニ工部省ハ電信線架設ノ工事ヲ擔當セ
シテ以テ其通信事務ヲ合併セテ之ニ委託シタルナリト云
フニ止マルコトナルベシ果シテ此理由ニ相違ナクハ實ニ不
行届千萬ナル委託法ト云ハザルヲ得ズ何トナレハ通信事
務ヲ監督スルト通信器械ヲ製作スルトハ全ク其性質ヲ異
ニスルモノコト製作者必ズシモ事務ノ監督ヲ能クセズ監
督者亦必ズシモ好製作家ヲザルナリ蓋シ器械ノ製作ハ
技術ニ屬シ事務ノ監督ハ才能ニ屬ス技術ハ修熟シテ上達
スベク其人ヲ得ルコト難カラズト雖モ有テ有能ノ好監督ヲ
得ルハ極メテ難キコトナルベシ從來ノ世評ニ驛遞局ト電信
局トノ事務取扱振リヲ比較スルニ驛遞局ノ方ハ頗ル社會
ノ人情ニ通シ勉メテ江湖顧客ノ好意ヲ失ハザランコト注
意スルモノ、如ク電信局ノ方ハ此一段ニ於テ驛遞局ニ讓
ルコト宜ニ三舍ノミナラズト云ヘリ是或ハ製作家ハ技術ヲ
守ルニ專ラシメテ事務ノ大体ニ通ズルニ違アラサルノ意
味モアルカ若シ技術家ハ即チ事務家ナリト云フ者アラハ
造船技手ヲ船長ニ用ヒ船長ヲ航海會社ノ社長ニ用ヒ紙幣
ヲ製造スル印刷長ヲ銀行總裁ニ用ヒヨト云フニ至ルコトナ
ルベシ其不都合ハ我輩ノ證明ヲ要セザルナリ

以上論陳スル所ノ理由果シテ事實ニ相違ナクハ電信事務
ハ必ズ郵便事務ニ合併スベキノミナラズ電信郵便相須テ
大ニ驛遞事務ノ功ヲ奏スベキヲ以テ暫ラシテ其局部ノ小
務ニ就テ觀察スルモ合併ノ利益又昭々タルベシ例ハハ配
達法ノ如ク一町内ニ郵便電信ノ二局各別ニ分立スル時ハ
緩急相助ケルコト能ハズト雖モ之ヲ合併シテ一局内ニ於テ
兩事務ヲ取扱フコトナレバ其便益尋常ナラズ以テ二局合
シテ一人ノ役丁ヲ要シタルモノガ後ニハ六七人ニシテ餘
リアルベシ實地當局者ノ一考ヲ煩ハシテ其例ハ必ズ
枚舉ニ違アラザルベシ我輩ハ實ニ電信事務ヲ取テ驛遞局
ニ合併センコトヲ希望スルナリ

我輩既ニ電信事務ヲ驛遞局ニ合併シテ我輩ハ又此合併
ト同時ニ大ニ日本ノ電信事務ヲ改良シテ之ヲ希望スルナ
リ其希望ノ詳細ハ之ヲ次号ノ時事新報ニ論述スベシ